

# 栃木東中「東中だより」1月号



## 【学校教育目標】＜生きる力の育成＞

- よく考え、自ら学ぶ生徒
- 豊かな心と強い意志をもった生徒
- 健康で、自他の生命を大切にする生徒

## 【目指す学校像】＜経営の指針＞

竹のように、誰もが“いちずに天を目ざす”東筍学園

### “伝統”を受け継ぎ、“志”を引き継ぐ

1月8日(水)、“生徒会新旧役員の引継式”を行いました。池田会長から高江柄新会長に校旗が手渡され、「東中丸」が平成26年という大海に向けて船出をしました。

旧役員の皆さんは、本当によく頑張ってくれました。心から感謝します。新役員の皆さん、よろしくお願いします。

幹	旧役員	役職	新役員	幹
3	池田 暉 君	会長	高江柄友乃さん	2
3	新井 冴佳さん	副会長	小浪 健弘 君	2
2	関口 真人 君	副会長	石原 悠翔 君	1
3	小池 玲央 君	書記	関口杏梨紗さん	2
3	高村 奈摘さん	書記	大野 笑奈さん	2
2	高江柄友乃さん	書記	須賀 俊介 君	1
2	小浪 健弘 君	書記		
3	稲田 巧典 君	会計	柿沼うららさん	2
3	久我 星奈さん	会計	布川 里和さん	1
2	大野 笑奈さん	会計	池田 彩 さん	1



新旧会長 校旗の引継



旧役員のあいさつ〔感謝〕



新役員の任命〔自覚と意欲〕



高江柄新会長のあいさつ

※生徒一人一人の会員としての自覚が、役員の努力を支えています。

## 第三学期 始業式 校長講話

1月8日(水)

私個人の今年の目標とする四字熟語は、『虚心坦懐』です。「虚心」とは、先入観を持たないで、素直な心でいること。「坦懐」とは、心の平らかなこと。胸にわだかまりのないこと。

つまり、「心に何のわだかまりもなく、さっぱりしていて穏やかな気持ち。また、そうした心で物事に臨むさま。」の意味です。

校長としての目標を四字熟語で表すと、『戮力協心』です。

「戮力」とは、力を合わせること。「協心」とは、心を合わせて、助け合うこと。

## 【目指す生徒像】＜東筍の心得＞

- さわやかで、明るいあいさつができ、仲良く活動する。
- 忍耐強く、黙って清掃や作業に取り組む
- 目的をもって、いちずに学習・運動に励む
- 気品があり、場に応じた正しい言葉遣いができる。

平成26年1月10日(金)発行 文責：石嶋和夫

### みんなで力を合わせて、今年度の総仕上げを

3学期の学級委員長・副委員長を任命しました。みんなで心を一つに協力し合って、“有終の美”を飾りましょう。

学級	学級委員長	副委員長	四字熟語
1-1	野原 幸希 君	小谷野真希 さん	心機一転
1-2	毛塚 勝良 君	福富 千瑞 さん	報恩謝徳
1-3	谷中遼太郎 君	矢部 千夏 さん	剛毅果断
1-4	牧野 励 君	大塚 亜海 さん	十人十色
2-1	金子 拓真 君	稲村 理子 さん	玉石混淆
2-2	関口 真人 君	澁谷 裕花 さん	勇猛精進
2-3	武井 梨紗 さん	永井 摩於 君	公明正大
3-1	久我 星奈 さん	小池 玲央 君	全員感謝
3-2	池田 暉 君	志鳥 華帆 さん	最高傑作
3-3	大森実彩希 さん	稲田 巧典 君	有言実行
3-4	高村 奈摘 さん	高田 真智 君	全員笑顔
3-5	大木 大作 君	中村 竜也 君	獅子奮迅

※ 各学級委員さんに、3学期の目標とする“四字熟語”を選んでもらい、その理由を発表してもらいました。

その結果、各クラスが学期ごとに目標とした“言葉”がそろいました。以下のとおりです。

	1学期 一文字	2学期 二字熟語	3学期 四字熟語	※幕末から明治にかけて言葉が人々を動かしました。例えば、「尊王攘夷」等。今の人は、言葉では、なかなか動きません。でも、自分らしく生きるには、座右の銘ともいふべき、指針となる言葉が必要です。
1年1組	夢	結 束	心機一転	
1年2組	真	団 結	報恩謝徳	
1年3組	輝	活 躍	剛毅果断	
1年4組	絆	団 結	十人十色	
2年1組	心	自 覚	玉石混淆	
2年2組	全	漸 増	勇猛精進	
2年3組	輝	必 笑	公明正大	
3年1組	輝	挑 戦	全員感謝	
3年2組	石	天 下	最高傑作	
3年3組	卓	前 進	有言実行	
3年4組	最	晴 春	全員笑顔	
3年5組	楽	協 力	獅子奮迅	

つまり、「全員が、心を一つに、協力し合って物事に取り組むこと。」です。

3学期に、1年生は「職場見学」。2年生は「立志スキー宿泊学習」。3年生は「卒業式」があります。もちろん、「卒業式」は、1・2・3年生全員で作上げる式ですが。

それぞれの活動において、全員が、心を一つに、協力し合って取り組んでください。

また、ある人に言わせると、「入試」も個人戦ではなく、団体戦だそうです。一人一人が、個人で「入試」という試験に立ち向かうのではなく、学級・学年のみんなで、互いに励まし合い、支え合って「入試」に挑戦し、みんなで乗り越えようというのです。頑張りましょう。

## 「午年」にちなんで、「馬」に関するお話を

人間 万事 塞翁が馬 ※平成23年度『みとせ』に掲載  
〔人の世は、不幸になるかと思うと幸せになったり、また、その逆もあったりするので、予想がつかない。〕

昔、中国の北方の国境の塞〔とりで〕近くに、占いの得意な翁〔おじいさん〕が住んでいました。

ある日、その翁の馬が、国境から北へ逃げ出してしまいました。まわりの人々が「残念ですね。」と、慰めに行くと、翁は「いや、このことが、良いことになるかもしれないよ。」と言いました。

それからしばらくして、逃げ出した馬が、北方の素晴らしい名馬と一緒に連れて戻ってきました。まわりの人々が、「良かったですね。」とお祝いに行くと、翁は「このことが、災いになるかもしれないよ。」と言いました。

しばらくすると、翁の息子が、その名馬から落馬して脚の骨を折る重傷を負ってしまいました。まわりの人々が、かわいそうに思ってお見舞いに行くと、翁は「いや、このことが、福となるかもしれないよ。」と言いました。

それから一年後に、北方の異民族が、国境の塞を襲撃してきました。塞近くに住む若者たちは、激しく戦い、何とか塞を守ることができましたが、多くの若者が死んでしまいました。しかし、翁の息子は、落馬したために脚が悪かったので、兵役を免れ、戦いに行かずにすみ、無事でした。



## 馬に関する「ことわざ」や「熟語」、「慣用句」

「馬耳東風」 ※「東風」とは、春風のこと。

暖かい春の風が馬の耳元に吹いてきても、馬は何も感じないことから、人の意見や批判などを心にとめず、聞き流すことのたとえ。

「馬齢を重ねる」

「馬齢」とは、自分の年齢を謙遜して言う言葉で、たいしたこともせず、ただ無駄に年をとることのたとえ。

「馬脚を現す」

「馬脚」とは、芝居で馬の足に扮する役者のことで、馬の足を演じていた役者が、うっかり自分の姿（足）を見せてしまうことから、隠していた本来の姿が表にあらわれること、化けの皮がはがれることをいう。

りゅうめ つまず  
「竜馬の躓き」 ※「竜馬」とは、足の速い名馬のこと。

ずば抜けてすぐれた馬でも、つまずくことがあることから、どんなにすぐれた人でも、ときには失敗することがあること。

ちくば  
「竹馬の友」竹馬（たけうま）に乗って一緒に遊んだ幼い頃からの友達、幼なじみのこと。

※ 人間の生活や軍事上（昔は）、とても役立つ動物であった「馬」に関する言葉の多くが、あまり好ましくない意味で使われていることに驚きました。

## 「生活や人権に関するアンケート」の結果です

12月上旬に全生徒を対象に、以下のような「アンケート」【記名式】を実施しました。※回答生徒数305名。小数第1位を四捨五入。未記入があるため、100%になりません。

① 学校生活は、楽しいですか？

ア とても楽しい〔40〕 イ 楽しい〔53〕  
ウ あまり楽しくない〔5〕 エ 楽しくない〔1〕

② 学校生活の中で、心配事や悩みはありますか？

ア ある〔10〕 イ ない〔90〕 +記述

③ あなたは、最近、いじめを受けたことがありますか。

ア ある〔0〕 イ ない〔100〕 +記述

④ あなたのまわりで、最近、いじめで困ったり、悩んだりしている人がいますか。

ア いる〔1〕 イ いない〔99〕 +記述

⑤ 部活動は、目標をもって楽しく取り組んでいますか？

※ 1・2年生のみ、回答

ア とても楽しい〔53〕 イ 楽しい〔41〕  
ウ あまり楽しくない〔5〕 エ 楽しくない〔1〕

⑥ 自分の短所も含めて、自分のことが好きですか？

ア とても好き〔5〕 イ 好き〔44〕  
ウ あまり好きではない〔38〕 エ きらい〔12〕

⑦ 自分の進路を考えたとき、将来についての夢や希望がありますか？

ア たくさんある〔19〕 イ ある〔54〕  
ウ ほとんどない〔22〕 エ ない〔5〕

⑧ 学校や地域で、だれに対しても、きちんとあいさつができていますか？

ア 自分からする〔70〕  
イ 相手があいさつすればする〔21〕  
ウ 特定の人にだけする〔8〕  
エ ほとんどしない〔1〕

⑨ 自分が悪いことをしたと思ったとき、素直にあやまれますか？

ア 素直にあやまれる〔77〕  
イ 親や先生、友達に言われれば、あやまる〔11〕  
ウ なかなかあやまらない〔11〕  
エ 自分が悪いとわかっていても、あやまらない〔1〕

⑩ いじめに対して、どう思いますか？

ア どんな理由があろうと、いじめる側が悪い〔56〕  
イ いじめる側が悪いが、いじめられる側にも原因がある場合は、仕方がないと思う〔44〕

⑪ ある人を自分より劣っていると考えて、その人をばかにしたり、からかったりしたことがありますか？

ア 1回もない〔30〕 イ 1～3回あった〔38〕  
ウ たまにある〔23〕 エ 時々ある〔9〕

⑩のイ「いじめる側が悪いが、いじめられる側にも原因がある場合は、仕方がないと思う。」という選択肢は、「いじめ」について生徒たちに深く考えてもらうために、揺さ振りをかけたものです。

たとえ、どんな理由があろうと、人間関係のトラブルは、正しい方法で解決すべきであり、「いじめ」という不当な差別をしてもよい理由にはなりません。

自分を相手の立場に置き換えて、同じことが言えるか、できるかが、「公平・公正」の基準だと思います。